



岸和田市郷土文化室（自然資料館（自然史担当）・郷土史担当・文化財担当）

平成 21 年 3 月 31 日

社寺林から始める森の観察 ～森林の階層構造～

村上 健太郎

社寺林ということばを聞き慣れない方もおられるかもしれませんが、漢字の意味するとおり、「お寺や神社の森のこと」を指しています。これらのうち、神社林はよく「鎮守の森」という呼び方もします。神社を取り囲む森林は、古くから神様がいます森として保護され、しばしば巨木が残って、荘厳な雰囲気をかもし出しています。岸和田の平地から丘陵地では、社寺林のような、よく保護された森林では、コジイやカシ類、クロガネモチなどが優占する照葉樹林（常緑広葉樹林）となっています。

最近、身近な自然が失われているという話をよく耳にしますが、周辺の自然が壊されてしまった地域であっても、社寺林だけは開発を免れ、その地域の本来の植生をある程度、保っていることがあります。社寺林は、その地域の自然の状態を知るための手がかりといってもよいでしょう。1960～70 年代は、経済成長が著しい時代でしたが、その半面、森林開発もよく進んだ時代でした。1970 年代以降、社寺林は、地域の潜在的な自然植生の姿をとどめた自然として、植物生態学的な研究が進められ、それらは自然保護の流れにも結びついてきました。以降、さまざまな分野の研究の進行とともに、社寺林の価値観や見方は変化していますが、「社寺林を見ることによって、その地域の環境が見える」ということについては、ずっと変わっていないように思います。

ところで、もともと植物に関心のある人が神社を訪ねれば、「こんな木がこの神社の森をつくっているんだ」「こんな花が咲いているな」などと、ごく自然に社寺林の植物を楽しむことができますと思いますが、樹木を見慣れない人は、社寺林を訪ねても、どのようなところを見ればよいのか、わからないかもしれません。名札がついていなければ、木の名前すらも、わからないことも多いでしょう。私も、大学院に入ったばかりの頃は樹木の名前がほとんどわかりませんでしたし、そんな状態では、山や神社へひとりでいっても、何を見ればよいのだろうと、当惑した経験があります。そんなときに、自分の指導教官の先生に習ったことは、一つは「押し葉標本を作って、少しずつでも、樹木の名前を覚えていかなければならない」ということと、もう一つには、「木の名前がわからなくても、森の観察はできる。森林の植物の階層性（垂直構造）や水平構造を見る」ということでした。植物は見わけられるに越したことはありませんし、植物の調査を進めていくためには、最低限、いくつかの種類を知っておかなければなりません。しかし、植物の細かい部位を見て、種を見わけることだけが大事なのではなく、どんな森なのかを見ることも、環境を知

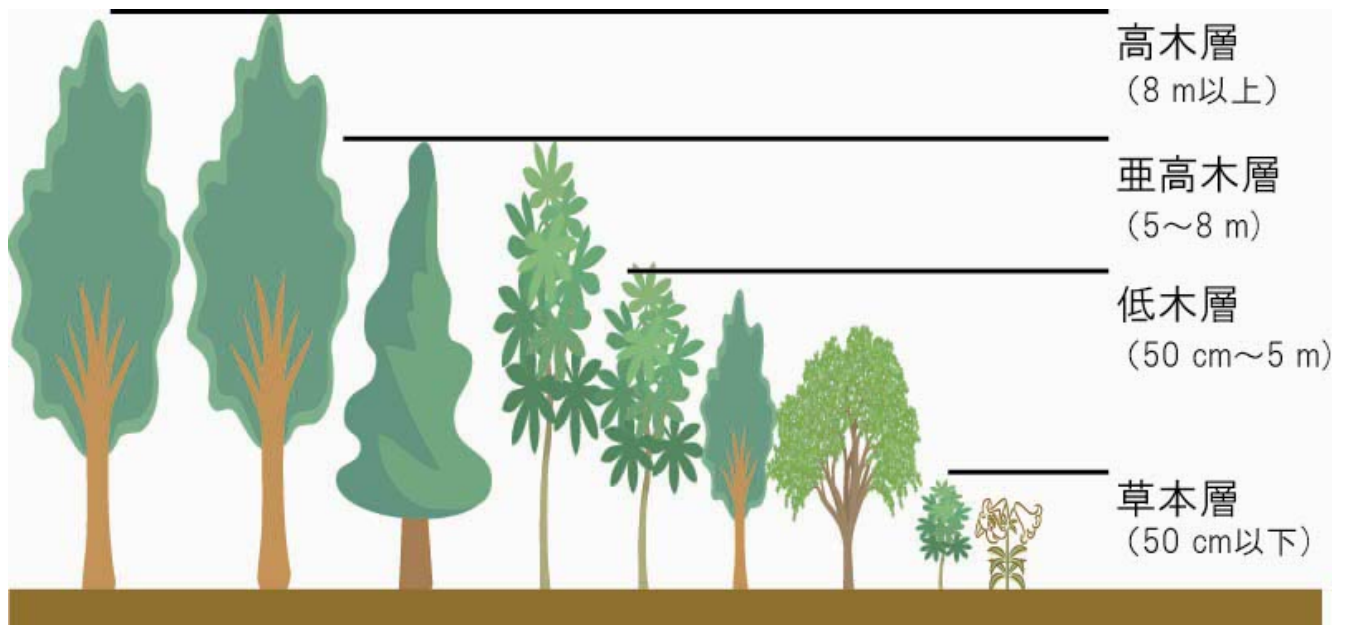


図 1. 森林植物の階層構造



図 2. 森林の階層性に乏しい神社林（左）と階層構造が発達した神社林（右）

るという意味では、とても大事だということを教えてもらいました。森林の植物たちは良い光環境を得るために競争しており、自然の森林では、高木層、亜高木層、低木層、草本層といったように、階層構造がはっきりしています（図 1）。階層構造がよく発達し、林床近くに低木や草本が多数あるということは、森の後継ぎがしっかり存在するという意味でも、健全な森林であることの証なのです。また、鳥類など、森林を生息地としている生きものも、階層構造が発達しているほうが種類が多く、いろいろな生きものが生きられる環境という意味でも、森林植物の階層構造は重要なのです。「構造」というと、言葉の上では、やや難しい印象を持たれるかもしれませんが、都市部に近い社寺林へ出かけて、森の中へ入り、じっくり観察してみると、意外にわかりやすいものです。岸和田市内の社寺林を訪ねても、林床がすっきりしていて、階層性に乏しい、すっきりした庭のような印象の社寺林と、さまざまな植物からなる階層構造がよく発達した社寺林が見られます（図 2）。前者の社寺林では、樹木の種数も少ない傾向があり、後者の社寺林（意賀美神社や積川神社、山直神社、稲葉菅原神社など）には、照葉樹林でしか生きられないツルコウ

ジ、タイミンタチバナ、ルリミノキなど、貴重な樹木が生育しています。

さて、森林植物の階層構造が、身近な社寺林で観察できることについて、ここまでお話してきましたが、実は樹木や森林のことだけを考えても、社寺林では、他にもさまざまな自然観察をすることができます。その上、社寺林の生きものは植物だけではありませんから、身近すぎて、ありふれた自然のように思える森でも、いろいろな視点の自然観察が可能なのです。また、樹木の名前にピンとこない人、これから樹木を調べたいと思っている人たちに近所の社寺林の樹木を観察してもらうために、岸和田市の自主学習グループ「はらっぱ」が、4年をかけて調べた冊子「岸和田の社寺林 2007」が最近、発行されています。この冊子には、岸和田市の社寺林の樹木リストや社寺林の状況調査、樹木の分布地図などが掲載されており、実際に地図を見ながら、樹木の名まえを確かめたり、社寺林の環境を調べたりすることができます。これを片手に、近所の社寺林を訪ねてみてはいかがでしょうか？この冊子は、残部は僅少とのことですが、「はらっぱ」の方に連絡すれば、入手可能ですので、一度見てみたいという方は、自然資料館の村上までご連絡ください。

(むらかみけんたろう：自然資料館学芸員)

短冊の美

山中 吾朗

短冊は、タテ約 35cm、ヨコ約 6cm 程度の細長い紙に、和歌や漢詩などを書き付けたものです。歌会で和歌を書き付ける用紙としては、懐紙が正式の用紙として使われましたが、略式のメモとして短冊も使われ、その内容が歌巻などに清書されると消耗品として処分されたらしく、現存する短冊は鎌倉時代以後のものがほとんどです。また、初めは細長く切った文様のない和紙が使われていましたが、室町時代頃からは様々な文様や装飾を施した短冊が使われるようになりました。

短冊の装飾方法として最も代表的なものは、打曇^{うちくもり}又は雲紙と呼ばれる、短冊の上下端を青・紫・赤茶色等に染めた雲形の文様を施すものです。通常は上端が青、下端が紫又は赤茶色に染められ、それぞれ空と大地を象徴しているとも言われています(天地逆のものもあります)。

その他、金・銀粉や箔を散りばめたもの、金・銀や絵の具・墨等で文様や絵画を描いたもの、所々に短冊の左右端から金・銀・朱等で霞がかかったように装飾したものなど、次第に様々な装飾を凝らした短冊が用いられるようになりました。特に桃山時代の短冊は、時代の風潮を反映してか優美な短冊が好んで用いられました。

室町末期以後の茶道の流行とともに、茶室の床の間に掛けられる古筆の収集も流行し、それに伴って古い短冊の筆者が誰であるのかに関心が集まり、古筆の鑑定家も現れました。古筆鑑定家として有名な家に古筆家があります。古筆家は元は平沢姓を名乗っていましたが、豊臣家または徳川家から古筆の姓を与えられたと伝えられています。鑑定の基準となる色紙や古筆切^{こひつぎれ}(断簡のこと)等を写真のアルバムのように貼った帳面^{て かがみ}を手鑑と呼びます。古筆家が所有していた手鑑『藻塩草』(京都国立博物館蔵)・『翰墨城』(MOA美術館蔵)はいずれも国宝に指定されています。古筆鑑定家は極札^{きわめふだ}という小さな紙片の鑑定書を発行し、それぞれの筆者を類推しています。多くの場合、極札は信用できないといわれていますが、筆者を推定す

る場合の一応の目安にはなります。

岸和田城では、5月10日まで企画展「短冊の美」を開催しています。ここで展示しています約100点の短冊は故佐々木勇蔵氏が生涯収集された約25,000点のコレクションの中から、特に優美な短冊を選んでいます。佐々木勇蔵氏は、泉州銀行や学校法人泉州学園を創立し、戦後岸和田の経済発展・教育振興などに尽力された一方、国内有数の短冊コレクターとしても知られています。このコレクションの特徴は、中世から現代までの様々な階層の人々の、あらゆる形態の短冊が網羅されていることです。筆者（推定含む）には、天皇・公家・僧侶・武士・詩人・学者・芸術家・芸能人・スポーツ選手・小説家等様々な階層の人々がおり、その内容も和歌・漢詩・俳諧・短歌・絵画・サイン等およそ短冊に表現されるあらゆるジャンルのものが含まれています。短冊の個人コレクションとしては質量ともに日本を代表するコレクションと言っても過言ではありません。この機会に是非岸和田城で古人の名筆をご鑑賞ください。

（やまなかごろう：郷土文化室学芸員）

Information

■岸和田城の展示案内■

企画展 「短冊の美」

- 会期：3月4日(水)～5月10日(日)
- 開館：午前10時～午後5時（入場は4時まで）
- 場所：岸和田城天守閣2階展示室
- 入場料：大人300円 中学生以下無料
- 休場日：月曜日(4/6・4/13・5/4は開場)
- 主な展示品：
 - 一条兼良筆 和歌短冊「おもふ事」
 - 直江兼統筆 詩短冊「名所残雪」
 - 上田秋成筆 俳諧短冊「瓜冷て」
 - 板垣退助筆 和歌短冊「国を思ふ」
 - 北原白秋筆 短歌短冊「春泥の」

■自然資料館からのお知らせ

きしわだ自然友の会・2009年度会員募集

きしわだ自然友の会は、自然資料館と協力しながら、行事や出展、会誌発行など、さまざまな活動を通して自然を楽しく学んでいる団体です。自然が大好き、生物や地質学についてもっと学びたいという人は、ぜひご入会ください。会員特典もあります。

- ・会費：個人会員 年2,000円；家族会員（同一住所内に住んでいる家族が対象）年3,000円；特別会員（友の会を援助してくださる人）年10,000円
- ・申込：
郵便局での申込：振込票の通信欄に、会員種別（個人・家族・特別）・〒番号・住所・氏名。家族会員の場合は会員となる家族の人数・電話番号・あればメールアドレスを記入し、(00910-4-160323 加入者名・きしわだ自然友の会)に振り込んで下さい。

自然資料館で申込：自然資料館開館中(10時～午後5時・月曜日・月末休館)なら、いつでも受付可能です。

※いずれの場合も、会員証は5月上旬までに、まとめて郵送します。

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423-8100 FAX: (072) 423-8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>
Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)